

## 巻頭言

### 工学研究所所報巻頭言（所長就任にあたって）

許 瑞 邦\*

#### PREFACE--Toward New Research Institute for Engineering--

Zuihou KYO\*



工学研究所所長に選出され、今年度4月より就任いたしました。そこで今年度巻頭言の場を借りて、私の任期中の抱負を述べさせていただきます。

岩田前工学研究所長は

- [1] 工学部より独立した工学研究所組織への移行,
- [2] 外部資金導入への努力,
- [3] 研究所客員教授制度の導入,

を重点課題にして取り組んでこられました。その結果、[1]については、専任講師以上の教員全員を工学研究所の所員とする新体制に移行しております。又、工学研究所の運営では運営委員会審議と同時に、重要案件については所員会議で最終決定することとなりました。[2]については、共同研究採択審査にあたって外部の競争的資金導入の呼び水になり得るかどうかを審査項目に加えられました。今後の効果が期待される所であります。[3]については、既に工学研究所案が大学本部に提出され、中島副学長が主催する総合学術研究推進委員会で審議が始められている状況で、来年度4月にはこの制度が施行される運びになる筈です。このように前所長が蒔いた種が実を結びつつあります。ところで、工学研究所の日常業務を円滑に実行するだけでも結構な仕事になりますが、より一層の発展を図るために、次の点をこれからの重点課題にしてはと考えております。

『社会に、より一層貢献する工学研究所へ！』

＝社会に開かれた工学研究所への展開

これまで工学研究所は研究の推進、公開を通して学会や産業界にも少なからず貢献してきましたが、「広く社会へ貢献する」という視点から研究所の活動内容・研究

成果を社会により一層広く公開すると共に 日本最大の研究拠点が集積する横浜地区で、これまでに4万名に達する学部卒業生及び1500名の大学院卒業生を輩出してきた神奈川大学工学部・工学研究科の膨大な研究財産を活かして、社会・産業界のご協力を得て地域の研究拠点となりうる研究所を目指したいと考えております。この実現のために先ず次のような具体策を工学研究所運営委員会に提案させていただきました。なお、この一部はすでに実行に移しています。

1. プロジェクト方式による研究推進体制の導入
2. 社会のニーズを先取りする課題研究所の設立提案
3. 現行客員研究員・特別研究員・補助研究員制度の改訂と導入予定の客員教授制度の具体的適用
4. 研究所の活動を伝える「工学研究所たより」の発行
5. 共同研究審査会の強化（今後、研究推進部会への再編成と外部委員の招致）
6. 工学研究所一般公開の企画（講演会＋大型研究設備の公開・実演＋共同研究の成果発表）
7. 工学研究所所報記事の充実
8. 工学研究所大型装置管理委員会の強化
9. 研究設備説明用パネルの設置
10. 工学研究所大型研究設備のパンフレット作成
11. 産官学連携推進室との連携の実現
12. 職階変更も考慮した現行工学部助手の所員化

以上、「社会に開かれた研究所」を実現するため、現在、工学研究所運営委員会では上に挙げました項目を含めて種々の検討を進めている状況です。運営委員会としては社会でこれまで以上に評価される工学研究所を実現すべく、鋭意努力する所存ですので、今後、所員を初め関係各位のご助言・ご理解・ご協力を一層お願いする次第です。